

けんぽく農林ニュース

ふくしまから はじめよう。 「食」と「ふるさと」新生運動ニュース

～県北地方の「食」と「ふるさと」新生運動に関する
情報をお知らせします～



新たに排水施設(φ1000mm 排水ポンプ2台)を整備し、農地の湛水被害を軽減します。



伊達市梁川町五十沢地区の排水機場の様子



有限会社穂友が「豊かなむらづくり顕彰事業」優秀賞を受賞!



平成30年2月19日(月)、福島市の杉妻会館において「平成29年度豊かなむらづくり顕彰事業優秀団体表彰式」が開催され、管内より伊達市の有限会社穂友(以下「穂友」という。)^{ほゆう}が、「農業生産部門」において表彰されました。

本顕彰事業は、本県の農業分野で最も権威のある賞の1つで、集落等におけるむらづくり活動や、農業生産活動に顕著な実績を収めている団体等を表彰するものです。

穂友は、中山間地域の耕作放棄地発生を防止するため、水稻作業受託や遊休ハウスを利用したミニトマト栽培、直売所「かぼちゃ」の運営等を行っています。特に地域ブランド「旨い米」の生産・販売により、地域全体の栽培技術の高位平準化に貢献していることや、原発事故の影響による作付制限の中で、地域の放射性物質吸収抑制資材の散布作業を担ってきたことなど、地域の営農再開に尽力してきたことが評価され、このたびの受賞に繋がりました。

穂友の皆様、今回の受賞、誠にありがとうございます!

(企画部、伊達農業普及所)



福島県知事と(有)穂友の皆さん



佐藤県北農林事務所長と県北管内関係者と共に記念撮影



「やまもり会@霊山」が「林業研究グループ等活動発表会」最優秀賞を受賞！

平成30年1月31日（水）に開催された「平成29年度林業研究グループ等活動発表会」において、伊達市を中心に活動している森林ボランティア団体「やまもり会@霊山」（代表 遠藤善一氏）が、最優秀賞（県知事賞）を受賞しました。

県主催の「林業研究グループ等活動発表会」は、地域において林業に関する実践活動を行っているグループが、その活動内容を発表するものです。

「やまもり会@霊山」は、平成28年2月に結成された新しい団体ですが、里山林の整備、間伐材等の有効利用、林業体験の場の提供などのこれまでの活動内容と、若手会員二人（玉手孝行氏、佐藤悦美氏）による若さあふれる発表が評価され、今回の受賞となりました。

「やまもり会@霊山」は、平成30年度に開催される「東北・北海道ブロック林業グループコンクール」の福島県代表となります。

「やまもり会@霊山」では、本発表の課題名である「“やまもりで晩酌！”～参加でつくる持続可能なみんなの里山～」を合言葉に、今後も、地域資源の活用と参加を前提とした継続的な活動による「やりがい」と「なりわい」に根ざした地域おこしを図っていくこととしています。

皆さんもぜひ「やまもり会@霊山」が発信するワークショップなどの活動に参加してみてください！
(森林林業部)



「平成29年度林業研究グループ等活動発表会」の様子



発表者の玉手氏(左から2番目)、佐藤氏(左から3番目)



「農家民宿セミナー」及び「グリーン・ツーリズム交流会」を開催！

平成30年2月21日（水）、二本松市の道の駅ふくしま東和会議室において、県北地方振興局と当事務所の共催により、「平成29年度県北地方農家民宿セミナー」及び「県北地方グリーン・ツーリズム交流会」を開催しました。当日は、農家民宿の既存開業農家や新たに開業を希望する農家、旅行業者など約60名の方に参加いただきました。

セミナーの前半は、近年、訪日外国人旅行者が増加していることから、農家民宿での受け入れの可能性を検討するために2名の方から事例発表していただきました。まず、NPO法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会 専務理事・事務局長 武藤正敏氏より「農家民宿での外国人受け入れ実施について」と題して、モニターツアーで外国人留学生を受け入れた経緯とアンケート結果について報告していただきました。続いて、そのモニターツアーにも参加いただいた公益財団法人福島県観光物産交流協会 観光誘客専門員 ゴーイ・ヴィンセント氏より、「外国人から見た県北地方の農家民宿の魅力と今後の可能性」と題して、外国人が県北地方や農家民宿の魅力を感じるポイントや受け入れツールについてお話いただきました。

後半は、「県北地方グリーン・ツーリズム交流会」を開催し、旅行業者など観光関係者に、グリーン・ツーリズムの推進方向について意見をいただき、農業団体との情報共有を行いました。

また、別会場では、新規に農家民宿の開業を希望する方に向けて、管内の各消防署や県北保健福祉事務所、県北建設事務所による、開設に向けた農家民宿の「個別相談会」を実施しました。

参加者は、今後の農家民宿やグリーン・ツーリズムの取組方についてのヒントが見えた様子でした。県北地方のグリーン・ツーリズムがレベルアップすることを期待します。（企画部）



セミナー会場の様子



武藤氏の事例発表



ヴィンセント氏がインバウンド受け入れツールについて説明



農家民宿個別相談会の様子

「県北地方園芸振興セミナー」を開催！

平成30年1月22日（月）、全国農業協同組合連合会福島県本部福島営農事業所と当事務所の共催により「県北地方園芸振興セミナー」を開催し、県内各地はもとより山形県からの参加者も含め約180名が参加しました。

今年度は、「新たな樹形導入によりモモ産地に活力を！」をテーマに、午前は、JA福島ビルの会議室にて、主な樹形の特徴と導入上の留意点や各種データにより主要樹形を比較した研究成果などが発表されました。

午後は、福島県農業総合センター果樹研究所のほ場に会場を移し、弱剪定による自然形仕立おおふじ（大藤仕立）の第一人者である、山梨県甲州市の南秀岳氏みなみひでたかを講師に、幼木からの樹形づくりや若木の整枝剪定などについて、実践と講義を交えた研修が行われました。

当日は寒気の影響で雪がちらつくなかでしたが、全国トップレベルの剪定技術を目の当たりにした参加者からは、多くの質問や意見が出され、改めて「ももの樹形改善」への関心の高さが認識できたセミナーとなりました。
(農業振興普及部)



セミナー会場の様子



ほ場で剪定について実演する南氏(中央)

「きゅうり攻めの農業技術革新セミナー」を開催！

平成30年2月15日（木）、伊達市保原市民センターにおいて、ふくしま未来農業協同組合と当事務所の共催により、「平成29年度きゅうり攻めの農業技術革新セミナー」を開催し、農業者を中心に、関係機関・団体職員等を含め約170名が出席しました。

セミナーでは、明治大学の小沢聖おさわきよし農場特任教授より「キュウリの吸水・吸肥特性に応じた栽培管理」と題して講演をいただくとともに、当事務所農業振興普及部、伊達農業普及所及び安達農業普及所で調査してきた3件の革新的な農業技術の実証ほでの実施内容について、当事務所の各担当職員と実証を担当した生産者から、効果や課題について発表がありました。

また、資材の展示や全国農業協同組合連合会福島県本部の補助事業の紹介もあり、参加者からは「きゅうりの吸肥特性について理解が進んだ。」、「発表のあった資材を導入してみたい。」などといった声が聞かれました。

当事務所ではきゅうり産地のさらなる発展を目指し、引き続き革新的な農業技術の普及を行っていきます。
(農業振興普及部)



小沢農場特認教授による講演



熱心に聴講する参加者

「GAP認知度調査」を実施！

平成30年2月3日（土）、本宮市のサンライズもとみやにおいて「第20回あだち地域農業振興大会」が開催され、大会終了後にGAP認知度調査を実施しました。

「あだち地域農業振興大会」は、管内の3市村（二本松市・本宮市・大玉村）及び県が連携して開催し、次年度の農業生産振興を図るため講演や管内の取組事例の発表などを行っています。

今年度は、「福島県のGAP推進」について、県環境保全農業課 瀧田克典主査より、「平成30年以降の米政策」について、県水田畑作課 大波恒昭課長より講演がありました。

大会には約200名の生産者が参加し、GAP及び平成30年以降の米政策に対して関心の高さが窺えました。

大会終了後、参加者にGAPに関する認知度調査票を配付し、得られた回答は、「GAPの実践が経営改善に効果がある」、「GAPに取り組みたいと思う」という意見が過半数を超えていました。一方で、「実際に実行してみないと分からない」という意見もありました。

当普及所では、今後も、関係機関と連携しながら生産者に対するGAP促進を行ってまいります。
(安達農業普及所)



大会会場の様子



講演する水田畑作課 大波課長

平成 29 年度「田んぼの学校 閉校式・感謝の会」を実施！

平成 30 年 2 月 7 日（水）、福島市立飯野小学校の多目的室において、平成 29 年度「田んぼの学校 閉校式・感謝の会」が行われ、5 年生児童 18 名が参加しました。

この取組は、地域の未来を担う子どもたちが「農業・農村地域の大切さ」、「環境の大切さ」、「食・命の大切さ」について理解を深め、豊かな感性と深い見識を持つことを目的として、県が実施する「ふくしまの農育」推進事業を活用して行うもので、今年度最後の行事となります。

「閉校式」では、田んぼの学校長の高野久氏から「この 1 年でたくさんのことを学びました。毎日食べる米ができるまでには、たくさんの作業や大変な過程があることが分かりましたね。田んぼの学校で経験したことがみんなの糧になりますように。」との挨拶がありました。

続いて、飯野小学校の佐久間校長から「みんなで作ったお米がおいしくできました。みんな大変だったけど、面白かったとの感想ですね。この 1 年で学んだことが今後役に立つので覚えてください。」と、さらに佐藤県北農林事務所長から「春の田植え、夏のいきもの調査、秋の収穫など 1 年を通じて頑張りましたね。今回の田んぼの学校で体験したことを心にとめて、これからはしっかり頑張ってください。」との挨拶がありました。最後に、田んぼの学校長より児童 1 人 1 人に修了証が手渡されました。

閉校式の後に開催された「感謝の会」では、児童たちが、スライドを使って今年 1 年で学んだことを発表し、その後は、児童が収穫した米を使って自ら作ったおにぎりと豚汁をみんなで食べました。児童からは「田んぼでは何をするか最初わからなかったけど、知ることができて良かった。」「今回の経験を将来に活かしたい。」などの感想が聞かれました。

最後に、児童から感謝の気持ちを込め、各先生に田んぼの学校で収穫されたお米が、田んぼの学校長の高野氏と当事務所に、学習成果をまとめたファイルが送られました。（農村整備部）



佐藤県北農林事務所長あいさつ



修了証授与



田んぼの学校で学んだことをみんなで発表



収穫されたお米で作ったおにぎりを食べる児童たち

大学生の発想による新たな郷土料理の開発！

伊達市のNPO法人りょうぜん里山がっこうでは、本年度より「大学生の発想によるけんぽく『食』と『農』の魅力発信事業」に取り組んでいます。これは、大学生に、過疎・中山間地域の住民と交流して「食」と「農」の魅力等について理解を深めてもらい、学生自らの発想で新たな郷土料理やスイーツを開発し、SNS等により情報発信してもらうことを目指した事業です。

これまでのけんぽく農林ニュースでお伝えしてきたように、平成29年9月より、料理の試作やネーミングの検討を行い、大学生の若いアイデアと地元住民の皆さんの協力で、3品の新たな郷土料理・スイーツ（「かぼまゆシチュー」、「うちの伊達ロール」、「冬至かぼちゃパイ with A」）が開発され、地元のイベントへの出展・PRを行いました。

今回は、本年度の取組の集大成として、大学生が地元農業者等と共に完成した試食品を食べながら意見交換し、活動報告や事業に取り組んだ感想について発表を行いました。大学生からは、「試作やネーミングで悩んだ部分もあったが、最終的に良いものに仕上がってよかった。」、「今回の取組を地域の活性化のために、どんどん情報発信していきたい。」、「自分達だけで盛り上がるのではなく、地域外からも人が訪れてもらうような取組となっていけば良いと思う。」など、今後の活動に意欲的な意見・感想が多く出ました。今後、さらなる取組の発展を期待します！

（企画部）



大学生が意見交換での試食品を作成



新たな郷土料理・スイーツ（かぼまゆシチュー（奥）、うちの伊達ロール（左手前）、冬至かぼちゃパイ with A（右手前））



大学生と地元農業者等との意見交換



各々が「食」についての想いを記載した紙を持って記念撮影

国際農友会伊達支部海外派遣研修生壮行会が開催！

平成29年度一般社団法人福島県国際農友会海外派遣研修に、桑折町内でももと水稲を経営されている相原晴美氏、亀岡聡氏、亀岡隆宏氏の3名が参加することとなり、平成30年1月23日(火)、伊達市保原町内において、同会伊達支部主催による「平成29年度国際農友会伊達支部海外派遣研修事業研修生壮行会」が開催されました。研修生からは、「海外での研修という貴重な機会をいただいたので、国際的な視野を培いたい。また、研修生同士の交流も大切にしたい。」という決意表明が行われました。

今年度の海外派遣研修は、アメリカ合衆国カリフォルニア州及びフロリダ州で、2月5日～14日の10日間にわたり実施され、3月末に報告会が行われる予定です。詳細については、改めて御紹介します。
(伊達農業普及所)



研修に参加する亀岡隆宏氏(左)、亀岡聡氏(中央)、相原晴美氏(右)



壮行会出席者の集合写真

けんぼく6次化ミーティング「視察バスツアー」交流会！

平成30年2月26日(月)、当事務所の主催により、農産物の6次化に先進的に取り組んでいる農業者・団体の施設見学や体験談を聞く「けんぼく6次化ミーティング交流会『視察バスツアー』」を実施し、農産物の6次化に興味がある農業者や加工業者など33名が参加しました。

当日は、NPO法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会(二本松市)、薄井農園(須賀川市)、大野農園(石川町)、農産物直売所はたけんぼ(須賀川市)を視察し、地域特産品や自家農園の農産物を生かした6次化商品の製造・販売の事例について学びました。

参加者からは、「先進地での取組に感激した」、「農作業がお客様には楽しみとなる発想の転換、アイデアを見習いたい」などの感想が聞かれました。
(企画部)



参加者集合写真(道の駅ふくしま東和にて)



大野農園視察状況

平成 29 年度伊達地域農業普及推進懇談会(第2回)を開催！

平成 30 年 1 月 24 日（水）、県伊達合同庁舎において、当事務所伊達農業普及所の主催により「平成 29 年度伊達地域農業普及推進懇談会（第 2 回）」を開催しました。管内市町やふくしま未来農業協同組合伊達地区本部、伊達果実農業協同組合、伊達地方農業士会、伊達市・桑折町・国見町認定農業者会、県普及指導協力委員、普及所職員の計 22 名が出席しました。

はじめに、普及指導活動課題のうち、「伊達地域特産あんぼ柿の産地再生に向けた取組について」及び「ペポカボチャ産地化と地域産業 6 次化活動支援の取組について」の 2 課題の成果発表を行いました。出席者からは、あんぼ柿の放射性物質検査機のトレー測定時間が短縮され検査時間が大幅に削減されたとの意見や、ペポカボチャの栽培及び販売方法や種子価格などについての質問がありました。

その後、平成 29 年度普及指導 6 課題及び中間見直しのポイントや次年度普及計画を説明した後、意見交換を行いました。

出席者からは、普及活動における G A P の位置づけ、伊達市における放射性セシウム吸収抑制対策の今後の考え方、ほ場整備事業地区における水稻や園芸品目の栽培指導、鳥獣害防止対策、6 次化商品開発の継続的支援、新規就農者や定年帰農者への支援、J A 若手営農指導員の指導力向上、農業法人による地域雇用の拡大など、多方面にわたり数多くの意見・要望・助言をいただきました。

当事務所伊達農業普及所では、今後とも出席者からの御意見等を参考に普及指導活動を効果的かつ効率的に行ってまいります。

（伊達農業普及所）



吉田所長の挨拶



農業普及推進懇談会の出席者



普及指導活動の成果発表(あんぼ柿)



普及指導活動の成果発表(ペポカボチャ)

復興再生基盤整備事業(農地防災事業(湛水防除事業))五十沢地区の概況！

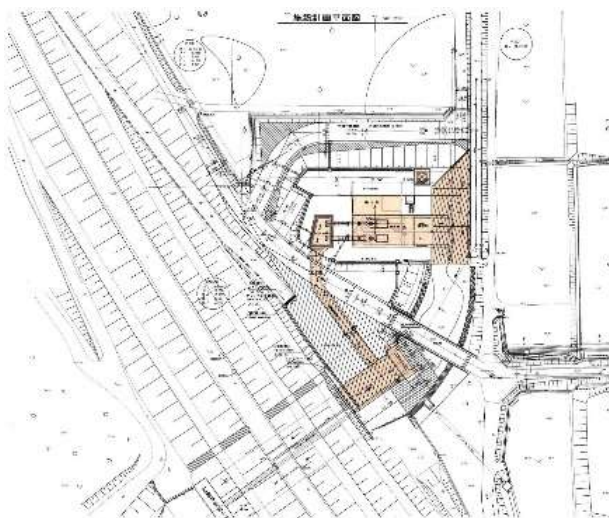
伊達市梁川町五十沢地区は、阿武隈川左岸に広がる農業地帯です。当地区の流域は 604.6ha であり、地域に降った雨は基幹排水路から地区内2箇所の排水樋函(五十沢排水樋門)を通じ、排水本川である阿武隈川に排水されます。

しかし、大雨により阿武隈川水位が上昇すると自然排水が不可能となる農地が多く、頻繁に湛水被害が発生しております。

このため、農地の湛水被害を軽減することを目的として、大雨により河川に自然排水ができないときに、ポンプによる強制排水を行うことができる排水機場を整備しています。

当地区は、平成 24 年度より実施しており、新たに整備する排水施設は、排水樋函及び、立軸斜流ポンプ $\phi 1000\text{mm} \times 2$ 台となっております。

平成 29 年度までの進捗状況は約 69%で、吸水槽及び吐出水槽、機场上屋建築、排水ポンプ2台及びエンジン2台、配電設備が完了しており、除塵機2基、水門1門を製作中です。併せて、現在現場では排水函管及び導流工が工事中です。平成 30 年度より、機場内に排水ポンプ2台の設置を行い一日でも早い供用開始を目指しております。
(農村整備部)



計画平面図



$\phi 1000\text{mm}$ 排水ポンプの吸込口

※ 設置後は、見ることの出来ないレアな写真です！



全国植樹祭「苗木のスクールステイ in 県北」!

苗木のスクールステイは、今年6月10日(日)に開催される「第69回全国植樹祭」で使用する苗木の一部を県内の小学生に育てていただくもので、県北管内では6市町村14小学校が参加しています。

スクールステイの苗木は、県から送ったポット苗(スギ、アカマツ、ケヤキ、ヤマザクラ等)と、子供たちがドングリを播いて育てた苗(コナラ等)があり、学校ごとに、地植えしたり、植木鉢・プランターに植えたり、そのままポットで育てていただき、現在、県北管内では合わせて130本が順調に育っています。

今後は、各小学校から集められた苗木が、全国植樹祭会場等で植えられることとなります。

小学生のみんなが育てた苗木で、ふくしまから発信する森林づくりを進めましょう!

(森林林業部)



スクールステイの苗木(伊達市立富成小学校)

けんぼく6次化ミーティング「Hot フルーツ! プロジェクト試食説明会」を開催!

当プロジェクトは、Hot フルーツ(県北産果物を使った「温かい商品」や「温めて食べる商品」)を食べることを推進する運動です。その一環として平成30年2月27日(火)、福島市民会館の会議室・調理実習室において、当事務所の主催により、「けんぼく6次化ミーティング『Hot フルーツ! プロジェクト試食説明会』」を開催し、農業者や加工業者、関係機関など約70名が参加しました。

第1部として、まず、当事務所企画部 小野知恵主査からのHot フルーツプロジェクトの説明の後、NPO法人素材広場 代表理事 横田純子氏より、「Hot フルーツの可能性」について講演いただき、協力者の募集を呼び掛けました。

第2部では、Hot フルーツの試食会を行いました。試食品として提供したのは、「春巻き(3種:りんご、もも、あんぼ柿)」、「りんごだれ白玉」、「ホットケーキHot フルーツソース(5種:もも、りんご、いちご、ぶどう、キウイフルーツ)」、「ももパイ」、「フルーツグラタン(もも)」、「麓山高原豚ソテー フルーツソース(2種:もも、りんご)」の6品です。

参加者からは、「ぜひ協力したい。」、「さっそく、りんごジュースでやってみます。」などの積極的な声が聞かれました。

今回、参加できなかった方でも、話を聞いてみたいという方はお問い合わせください。

御家庭でも作っていただけるレシピとなっていますので、皆様、ぜひ挑戦してみてください。レシピは3月中旬頃、当事務所ホームページに掲載予定です。(企画部)



講演会の様子



NPO法人素材広場 横田純子氏



提供した試食品の一部



試食会の様子

Hot フルーツの商品化に取り組みませんか？

けんぽく6次化ミーティングでは、平成30年度、Hot 桃の商品化及び販売に向けて試作してくださる事業者を募集します。

希望事業者へ県北管内で生産されている冷凍桃を提供し、試作に挑戦してもらいます。

その結果、Hot 桃商品やそれに必要な桃の一次加工品のブラッシュアップを図る材料とするため、意見聴取を行います。

予定事業者数：10 事業者程度

配布予定： 冷凍桃 最大10kg/事業者

(予算の範囲内で配布します)

平成30年3月9日(金)までに所定の申込用紙に記入して提出してください。希望事業者が多数の場合は、御相談させていただきます。

【お問い合わせ先】

福島県県北農林事務所 企画部地域農林企画課 (担当: 主査 小野知恵)

電話 024-521-2596、FAX024-521-2850、Eメール kikaku.af01@pref.fukushima.lg.jp

■申込用紙掲載HP: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36210a/kikaku-6jika.html>

山菜の出荷に御注意を！！

県北地方では、下記のとおり出荷制限指示が出されております！！
再度確認のうえ、出荷制限品目を出荷しないよう、御協力願います。

平成30年2月28日現在

くさそてつ（ごみ）	福島市、二本松市、伊達市、桑折町、国見町、川俣町、大玉村
たけのこ	福島市、二本松市、伊達市、本宮市、桑折町、川俣町、大玉村
ふきのとう （野生のものに限る）	福島市、伊達市、本宮市、桑折町、国見町、川俣町
ぜんまい	二本松市、川俣町
ぜんまい （野生のものに限る）	大玉村
たらのめ （野生のものに限る）	福島市、二本松市、伊達市、本宮市、桑折町、川俣町、大玉村
わらび	伊達市、川俣町
わらび （野生のものに限る）	福島市、二本松市
こしあぶら	福島市、二本松市、伊達市、本宮市、桑折町、国見町、川俣町 大玉村
ふき （野生のものに限る）	桑折町
うわばみそう （野生のものに限る）	国見町

出荷が制限されている品目については、自主検査により「基準値（100Bq/kg）以下」であつても出荷や販売は行わないでください。また、飲食店や宿泊施設等での提供や加工用原材料としても使用しないでください。

なお、最新の情報は福島県ホームページなどで確認いただくか、当事務所にお問い合わせください。

◆ふくしま新発売。（農林水産物モニタリング情報）URL

<http://www.new-fukushima.jp/>

◆お問い合わせ先

福島県県北農林事務所 森林林業部林業課

電話 024-521-2632

FAX 024-521-2851

けんぼくの6次化の取組の紹介 団体名 伊達物産株式会社
「おいしい鶏肉加工食品で、伊達鶏の知名度向上を図ります」



当社は昭和32年に設立し、昭和40年よりプロイラー事業を開始しました。その後、フランスのブレス鶏を手本として、食味の向上に徹した肉鶏を開発し、伊達鶏と命名して商品化しました。

おかげさまで伊達鶏は、首都圏の和・洋・中の高級飲食店のプロフェッショナルユーザーの皆様から高い評価を頂いております。

「伊達鶏の美味しさをより多くの方々にお手軽に味わっていただきたい。」という想いを形にする取組として、自社で食鳥処理した伊達鶏を、常温保管が可能な加工食品として販売しています。原材料の鶏肉には、伊達市地域資源に認定されている伊達鶏を使用しています。

生鶏⇒鶏肉⇒鶏加工食品という加工の流れを経た新商品開発は、福島県の地域産業6次化推進とベクトルを同じくするものにとらえ、積極的に取り組んでまいりました。現在のところ、伊達鶏関連の常温加工食品を10品ほどを販売しています。伊達市梁川町の「からあげ伊達屋」では、これら全品を購入できます。

当社の『伊達鶏ソフトカルパス』と『伊達鶏麻婆』は2014年と2015年にふくしまおいしい大賞を受賞いたしました。また『伊達鶏削り節』は、2015年度復興庁事業究極のお土産東北編において最終選考にノミネートされました。

皆さま、ぜひおいしい伊達鶏を御賞味ください。

●関連 URL : 取り扱いWEB販売 <http://greenfarm-f.jp/index.php>

●事業者データ 団体名 : 伊達物産株式会社

住所 : 960-0707 伊達市梁川町字南町谷川13番地

TEL : 024-577-2111 (代表)

HP : <http://www.datetori-club.com/>



商標登録図



伊達鶏の6次化商品(一部)

編集・発行 福島県北農林事務所 企画部 地域農林企画課

電話 024-521-2596 FAX 024-521-2850

ホームページ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36210a/>

電子メール kikaku.af01@pref.fukushima.lg.jp

